

2. すごろくトークをする。
 (1) 止まったますの言葉を声に出して読み、「」の言葉を言う。
 *「こえの ものさし」を意識させる。
 (2) ちょうどよい声の大きさを友達と一緒に考える。
 *ただすごろくを楽しむのではなく、5段階の声の大きさ(「0」を含む)のうち、「0」の声は教室移動のとき、「4」の声は体育館で発表するときなど、空間の広さや周りの状況でも変わること、変えることを意識させ、いろいろな声で楽しませる。

<ふりかえろう>
 3. 学習を振り返る。
 (1) 学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。
 *全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。

きょうのできごとを書きとめよう
つづけてみよう
 ——日記
 教科書:P10

■毎日の生活を振り返り、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、日記を書く。

☆学習用語:日記
 /日記のたね

1. 例文を読み、日記がどのようなものか、日記には何を書けばいいのかを知り、学習の見通しをもつ。
 *基本的には、毎日の生活を振り返って書くものだということをおさえる。実際には、その日のことにこだわらず書かせたり、幾つかの話題から選択させて書かせたりしてもよい。

2. 生活を振り返り、日記に書く材料を集める。
 *P11「日記のたね」を参考にして、書きたいことを集め、選ぶ。
 *「見たこと・聞いたこと・したこと・感じたこと」なども視点となる。
 *一緒に遊ぶ時間を作り、題材とするなどの工夫もできる。ペアやグループで遊んだことを想起し対話する時間をとってよい。

3. 日記を書く。
 *日記例を参考にして、日付・曜日・天気なども書くようにする。
 *「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「気持ち」「会話」など前学年での学習を想起しながら書くとよい。
 *書いたものは読み返し、まちがいなどがいないか確認する。

【知識・技能】
 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。
 ((1)ウ)

【思考・判断・表現】
 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。
 (B(1)ア)

【言語活動例】
 ・日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。(B(2)イ)

【態度】
 ・積極的に、経験したことや思ったことなどから書くことを見つけようとし、学習課題にそって、日記を書いて友達と読み合おうとしている。

	<p>4. 友達と読み合ったり、家の人に読んでもらったりする。 * 感想や励ましなどの一言を書いてもらうとよい。 * 年間を通して扱い、下巻P114『こんなことができるようになったよ』の題材選択などで活用することもできる。 * 楽しみながら続けていけるよう、学級の実態に応じて工夫したい。 例：期間を決めて全員取り組む／曜日を決めて提出を促す／グループで日記ノートを読み合う。</p> <p>5. 日記を書くときに気をつけることや題材の見つけ方などについて振り返る。</p>	
<p>たのしく こえに出して よもう ちいさい おおき い 教科書:P12</p> <p>口体を動かしたり、声の大きさを工夫しながら、楽しく読む。</p>	<p>1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 * P7の扉絵に登場する子どもの絵(イラスト)に着目して、それぞれの名前を確認しておく。</p> <p>2. 詩を読んで、気づいたことを発表する。 * 教師がいきいきと音読して見せることで、児童の緊張感を解くことができる。声の大きさや動きの工夫の例を示せるとよい。 * 範読する前に、まず挿絵をゆっくりと見る時間をとって、イメージをふくらませるとよい。</p> <p>3. 4人程度のグループで音読・表現の仕方を話し合い、発表会を開く。 * 動作化を多く取り入れるとよいことを助言する。 * 詩の中に登場する生き物のセリフを考えさせてもよい。 * 個人のアイデアをグループの中で持ち寄ることで、活発な雰囲気生まれる。さまざまな動きをつけているグループを認め、停滞しているグループに例を示し、参考にするように助言する。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)</p> <p>【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)</p> <p>【態度】 ・進んで言葉の響きなどに気をつけて、学習の見通しをもって音読しようとしている。</p>
<p>一 どうじょう人物のしたことに 気をつけて読もう はるねこ 教科書:P16</p> <p>口場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、音読する。</p>	<p><見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 (1)単元扉を読む。 (2)範読を聞き、登場人物や、大体のできごとを確かめ、感想をもつ。 * 2年生初めての物語文である。挿絵を提示しながら、物語の大体を捉えるようにしたい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)</p> <p>【言語活動例】</p>

★ここが大事:とうじょう人物

☆学習用語:登場人物/様子/場面/音読

<たしかめよう>

2. できごとや、人物のしたこと、場面の様子を確かめる。

(1)手紙の文章を読み、手紙ときんちやく袋が誰から届いたものなのか、いつのできごとについての手紙なのか確かめる。

*「いつのできごと」については、「きよねんは」、「きよねんの今ごろ」、「……そんなことが、一年まえにあったのです」という時を表す言葉に着目できるようにする。

(2)こまっているはるねこに、あやがしたことを見つけ、表にまとめる。

(3)そのときの場面の様子を見つ

け、表にまとめる。
* はるねこが何に困っていたのかを確認し、そのはるねこに対してあやがしたことを見つける。

<くわしくよう>

3. 登場人物の様子がわかるように音読する。

(1)<たしかめよう>で確認したことをもとに、好きな場面を選んで、登場人物の様子が分かるように音読の練習をする。

(2)音読を聞き合い、どのような様子が伝わってくるかなど、感想を伝える。

*なぜそのような読み方にしたのか問い返したり、聞いていた側にどのような様子が伝わってきたか聞いたりする。

<まとめよう>

4. 物語の中に出てくるものから考える。

(1)はるねこから届いたきんちやく袋の中身はどのようなものだったか確かめる。

(2)どんなたねが入っていたらうれしいか、そのたねのいいところとあわせて考える。

* はるねこからのきんちやく袋や手紙が届いたときのあやの様子を考え、「うれしい」という言葉を引き出したい。そこから、どんな種が入っていたらうれしいか、自分で考えるようにする。

<つたえあおう>

5. 友達と伝え合い、それぞれの考えのおもしろいところを見つける。

(1)考えたことを友達と伝え合う。

(2)友達の考えを聞いて、おもしろいと思ったところを見つける。

・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)

【態度】

・進んで場面や登場人物の様子を捉え、学習課題にそって音読を聞き合ったり、考えたことを伝え合ったりしようとしている。

	<p><ふり返ろう> 6. 「ここが大事」を確認し、「ふりかえろう」の観点に沿って振り返りを行う。 (1)登場人物の様子を考える時に、どのようなことに気がつけたか。 (2)友達の考えを聞いて、おもしろいと思ったところはどんなところだったか。</p>	
<p>大事なことをおとさずに聞こう ひろい公園 教科書:P32</p> <p>◇質問を落とさないように聞き、絵から答えを探す。</p> <p>★ここが大事:大事なことをおとさずに聞く</p> <p>☆学習用語:質問／様子／言葉／いつ／どこ／どんな／だれ／何</p>	<p><見通しをもとう> 1. 教材名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)公園の絵を見ながら質問を聞くという学習の見通しをもつ。 *公園の絵を見ながら、気づいたことを自由に話す時間をとり、活動に対する児童の興味や意欲を引き出す。 2. 質問を聞いて、絵から答えを探す。 (1)教科書に描かれた、広い公園の中の様子の絵を見ながら、質問を聞く。 (2)質問の内容を確かめ、答えを話し合う。 *質問に答える際に大事にしたことを確認する。 *p.35「ここが大事」を確認する。 (3)絵を見て、同じような質問を作り、聞き合う。 *適宜、「ここが大事」を確認するとよい。</p> <p>3. 伝言クイズをする。 (1)絵の中の様子を教師が伝え、伝言クイズをする。 *絵からわかることを、人物・服装・持ち物・動き・関係等の観点からクイズにするようにする。 (2)最後の人に伝言が伝わったら、伝言の内容と答えをグループで確かめる。 (3)絵の中の様子を言葉にして、クイズを出したり答えたりする。 *適宜、「ここが大事」を確認するとよい。</p>	<p>【知識・技能】 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)</p> <p>【言語活動例】 ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。(A(2)イ)</p> <p>【態度】 ・進んで話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、今までの学習を生かして、伝言クイズをしようとしている。</p>

	<p>4. p.36「書くと同じでも、読むとちがう言葉」を読み、アクセントの違う言葉を集め、文を作って比べ合う。</p> <p><ふりかえろう></p> <p>5. 学習を振り返る。 * 学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を交流する。 * 大事なことを落とさずに聞くために、どんなことに気がつけたかを振り返らせる。</p>	
<p>言葉の文化① 回文を たのしもう 教科書:P37</p> <p>△回文の意味を知り、楽しみながら回文を読む。</p> <p>☆学習用語:回文</p>	<p>1.教材文を読み、知っている回文を発表する。 * 回文の意味を知らせる。</p> <p>2.教科書の回文の例を声に出して読む。 * 教師の範読に合わせて上から読んだり、下から読んだりして、回文になっていることを確かめる。</p> <p>3.回文を作る。 * オリジナルの回文を作り、紹介し合う。 * 作った回文を学級で声に出して楽しむ。</p> <p>4.学習を振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ)</p> <p>【態度】 ・進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づこうとし、学習の見通しをもって回文を楽しみながら読んでいる。</p>
<p>漢字のひろば① 画と書きじゆん 教科書:P38</p> <p>△漢字の画と筆順について理解し、正しく書く。</p> <p>☆学習用語:画／画数／書き順(筆順)</p>	<p>1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 画・画数・書き順(筆順)について理解するという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p> <p>2. 「正」の字で数を数える画線法を行った経験を話し合う。 * なぜ「正」の字を使うか、画数に意識を向けることができるようにする。 * 「正」を例に、「画」および「画数」の名称とその意味について具体的に理解できるようにする。</p> <p>3. 「土」「日」の字は、それぞれ何画で書くのかを考える。 * 板書では、一画めから三画めまでが見た目でわかるように色分けするとよい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【態度】 ・積極的に漢字の筆順を理解し、学習の見通しをもって、正しい筆順で漢字を書こうとしている。</p>

4. 漢字の画や画数の意味を知り、「山」「女」「糸」「右」「目」「馬」の画数と、それぞれの一画めがどこかを話し合う。

* 「山」「女」などをもとに、画数を正しく数えられるようにする。

* 画数の確認にあたっては、既習漢字および新出漢字の筆順を確認しておきたい。とくに「女」「右」「馬」などに重点をおくようにする。

5. これまでに学んだ漢字をもとに、画数についての問題を作り、互いに答え合う。

* 巻末P161からの『一下までに学んだ漢字』の表から出題するとよい。

* 実態に応じて、空書きや指書きをしたり、直接ノートに書いて確かめることなどが考えられる。

6. 「書きじゅんのきまり」をもとに、筆順の三つの原則について、考える。

* 筆順には、一定のきまりがあることを理解できるようにする。

7. 三つの原則とは異なる「とくべつな書きじゅん」があることも、理解する。

* 筆順の原則についての知識を得ると同時に、画を組み立てられるようにすることが大切である。

8. 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って正しく書く。

* この時期においては、正しく整えて書くことが意識できるように、点画の細部にまで注意を払って丁寧に書くよう促したい。

<p>一年生で 学んだ漢字① 教科書:P40</p> <p>△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p>	<p>9. 絵の中の言葉として示されている漢字の読み方を確認し、一年生の時の一年間のできごとを振り返る。 * 絵の中にある一年生の時に学んだ漢字の読み方を再確認する。</p> <p>10. 教科書の絵と言葉を参考に短文を作り、句読点の打ち方に気をつけて書く。 * 語と語を適切につなぎ、句読点の打ち方に気をつけて文を書くようにはたらきかける。主語のあと、従属節のあと、並列する語のあとなど必要な箇所に、適切に読点を打つことを理解させるようにする。</p> <p>11. 学習したことを振り返る。 * 画と書き順について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p>
		<p>【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)</p>
		<p>【態度】 ・積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。</p>
<p>二 じゅんじょに 気をつけて、二つの つながりを かんがえよう すみれと あり 教科書:P42</p> <p>□ありとの関わりに気をつけながら、すみれが仲間を増やす仕組みについて説明した文章を読む。</p> <p>★ここが大事:「何が——どうする」に</p>	<p><見通しをもとう> 1. 単元扉を読み、「じゅんじょに気をつけて、二つのつながりをかんがえる」とは、どんな読み方なのかを考えたり、説明をする方法について確認したりして、学習の見通しをもつ。 (1)すみれやありを、これまでどのような場所で見たとあるかを想起する。 (2)「じゅんじょに気をつけて二つのつながりをよむ」とは、本文に出てくるすみれとありにどのような結びつきがあるのかを考えて読むことだ、と確認をする。</p>	<p>【知識・技能】 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)カ) ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを</p>

気をつけて読む

☆学習用語:順序
／つながり／題名

<たしかめよう>

2. 本文に書かれた内容の大体を確認する。

(1)題名や、单元扉の写真から、どんなことが書かれた文章なのかを予想し、考えたことをペアで伝え合う。

(2)すみれについて書かれたところと、ありについて書かれたところを見分ける。

* 10段落、11段落はすみれとありの両方について書かれていることに気づかせると良いだろう。

<くわしくよう>

3. すみれとありに、どのようなつながりがあるのか、書き出して整理をする。

(1)4～6段落までの、すみれが花をつけてから地面に落ちていくまでの流れを→などの記号を使って整理する。

* 思考ツール(「ステップチャート」や「KWL」など)を使用するとよいだろう。

(2)7～9段落までの、ありが地面におちたすみれの種を巣に持ち帰り、捨てるまでの流れを→などの記号を使って整理する。

* 思考ツール(「ステップチャート」や「KWL」など)を使用するとよいだろう。

<まとめよう>

4. すみれとありのつながりを説明する文を3文で書きまとめる。

(1)10～11段落の文章の中で、書き手が伝えたいことは何かを考えながら大事な語や文を選ぶ。

(2)「すみれは」から始まる文、「ありは」から始まる文、「すみれとありは」から始まる文の3文を考えて書く。

* 個人での解決が難しい場合は、P48学習の手引きに書かれた文章を参考にすることを伝える。

考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア)

○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)

【言語活動例】

・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)

・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C(2)ア)

【態度】

・進んで時間的な順序や事柄の順序を考えながら読むことを通して、学習課題に沿って、文章の中の重要な語や文を考えて選び出そうとしている。

	<p><つたえあおう> 5. 前時に作成した3文を友達と読み合い、考えを共有する。 (1)ペアを作り、3文の文章を互いに読み合う。 *文章のよさについて感想を伝えるように助言するといいたろう。</p> <p><ふりかえろう> 6. すみれとありのつながりを説明する文や感想についてのできばえを振り返る。 (1)すみれとありについて考えたことを加筆する。</p>	
<p>わかりやすくしろくしよう かんさつ発見カード 教科書:P50</p> <p>■観察して同じところや違うところを見つけ、考えが明確になるように事柄の順序にそって簡単な構成を考え、「かんさつ発見カード」を書く。</p> <p>☆学習用語:観察／発見／観察のポイント／メモ／文章／最初／次に／最後に／横書き／算用数字</p>	<p>1. 植物や生き物の様子をよく見て、「かんさつ発見カード」に書く学習活動について見通す。 *ここでいう「観察」「発見」の意味をおさえておく。よく見て新しく気づいたことを書くという学習の目的をつかませるためなので、厳密に区別する必要はない。 「観察」…対象を注意深く見て、様子を記録すること。 「発見」…今までと違うことを見つけたり、新しいことに気づいたりすること。</p> <p>2. 生活科の学習で継続して観察している動植物などから書く対象を決める。</p> <p>3. 観察して気づいたことをメモに書き出す。 *生活科と連携し、実際に見て観察メモを書くようにしたい。 *「かんさつのポイント」(P50)を意識させるようにする。</p> <p>4. P51ふきだしを参考にし、書く順番を決める。 *吹き出しを活用し、「さいしょに」「つぎに」「さいごに」という言葉を使って書く順番を考えさせる。</p> <p>5. P53「横書きの書き方」を読んで、横書きのきまりを知る。 *「かんさつ発見カード」を書くときに生かすようにする。</p> <p>6. 「かんさつメモ」をもとにして「かんさつ発見カード」を書く。 *例文を読んで、どのような書く順番になっているのか意識させる。 *「どこがかわったか」「くわしい様子」「思ったこと」という観点を手がかりにすると書きやすい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)力) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア) ◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)</p> <p>【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に、発見したことをもとに簡単な構成を考え、学習課題にそって、「かんさつ発見カード」を書こうとしている。</p>

	<p>7. 「かんさつ発見カード」を読み返し、まちがいや書き落としたことがないか確かめる。</p> <p>8. 友達と「かんさつ発見カード」を読み合い、互いの発見や書き方のよさに目を向け、感想を伝え合う。 * 感想を付箋紙等を書いて伝えたり、家の人に読んでもらい感想を書いてもらったりするなどの工夫ができる。</p> <p>9. どんなことに気をつけて「かんさつ発見カード」を書いたのか、めあてにそって振り返る。</p>	
<p>言葉の文化② むかしのうたを 読もう 教科書:P54</p> <p>△平仮名四十七文字を全て使った歌や数字が歌詞に組み込まれた遊び歌があることを知り、音読する。</p> <p>☆学習用語:いろはうた／かな</p>	<p>1. 学習の見通しをもつ。</p> <p>2. 「いろは歌」が、平仮名四十七文字を一回ずつ使って作られていることを確かめ、声に出して五七五のリズムのよさを楽しみながら読む。 * 「い」「ろ」「は」……と、一つずつ確認してみる。「ゐ」「ゑ」以外はかな表記通りの音でもかまわない。 * 教師の範読に合わせて声に出して読ませ、リズムをもっていることを確かめる。七音五音の組み合わせに気づかせる。 * 「いろは歌」には深遠な意味があり、意味に合わせた音読もあるが(「色は匂えど」のような)、二年生の段階で扱う必要はない。 * 暗誦したり遊びながら唱えたりするなどを楽しめる雰囲気作りに留意する。</p> <p>3. 数え歌を知り、遊びながら読んだり歌ったりする。 * P141「2年生で読みたい本①」の『かぞえうたのほん』を例に、言葉遊びの本を紹介したい。 * お手玉の遊び歌(数え歌)を動作を入れて範読し、数え歌や遊び歌に興味をもたせるようにする。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ</p> <p>【態度】 ・進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づこうとし、学習の見通しをもって音読しようとしている。</p>

<p>言葉の ひろば① かたかなで 書く言葉 教科書:P56</p> <p>△片仮名で書く言葉の種類を知り、正しく使い分ける。</p>	<p>1. 学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 *教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。</p> <p>2. P56を読んで、片仮名で書く言葉の種類を知り、P57の上段の設問をもとに片仮名で書く言葉を種類ごとに仲間分けをし、片仮名で書く言葉の種類を理解し、他にもあるか話し合う。 *言葉の中には、片仮名で表記するものがあり、それらは幾つかの種類に分けることができることに気づかせる。 *絵を見て片仮名の言葉を探し、仲間分けをする。 *仲間分けを確認しながら、片仮名の濁音と半濁音、長音や拗音の読み方や書き方を教師が示しながら指導をする。また、似た字形やまちがえやすい字形も確認しておくようにする。</p> <p>3. P57下段の絵から、片仮名で書く言葉を使った文を作り発表する。 *自分で文を作らせ、片仮名で書く言葉を確認する。 *絵で表現されているもの以外にも、関連してほかの言葉も示していくと、学習を広げていくことができる。 *絵以外のことで片仮名を取り入れたきのうのこと、自分の好きなことなどを文にして、身近な使用例を見つけ片仮名に親しみをもたせる。</p> <p>4. 学習したことを振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。 (1)ウ ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。 (1)オ</p> <p>【態度】 ・積極的に片仮名で書く語の種類を知ろうとし、今までの学習を生かして文を書こうとしている。</p>
<p>読書の ひろば① 本で しらべよう 教科書:P58</p> <p>△図書館で本を探す方法を知り、本を探して読む。</p>	<p>1. 図書館で本を探す方法を知り、本を探して読むという学習内容を捉え、学習の見通しをもつ。</p> <p>2. 図書館に行き、本を探す方法を知る。 *司書教諭の話聞いてもよい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)工)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C1)ウ)</p>

<p>☆学習用語:目次 ／司書</p>	<p>3. 自分が調べたり、読んだりしたいテーマの本を探して、読み、わかったことなどを項目ごとにメモする。</p> <p>4. 学習を振り返る。</p>	<p>【言語活動例】 ・学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。(C(2)ウ)</p> <p>【態度】 ・図書館で本を探す方法を知り、自分の目的の本を探す際に役立てようとしている。</p>
<p>三本でしらべて しょうかいしよう 「生きものクイズ」 でしらせよう 教科書:P62</p> <p>■経験したことや 本で調べたことな どから書くことを見 つけ、必要な事柄 を集めたり確かめ たりして、伝えたい ことを明確にする。</p> <p>★ここが大事:しり たいことをしら べ、クイズを作る</p> <p>☆学習用語:クイ ズ／内容／目次 ／問題／答え／説 明</p>	<p><見通しをもとう></p> <p>1. 身のまわりの生き物について調べ、「生きものクイズ」を作って友達に知らせるという学習活動について見通す。 * 生き物の本を紹介したり、クイズの本を使って実際にクイズを楽しんでみたりして興味・関心がもてるようにする。</p> <p><きめよう・あつめよう>(重点)</p> <p>2. クイズにしたい生き物を決め、詳しく調べる。 * 図書資料についてはP58「本でしらせよう」の学習を活用し、図書館へ行って自分で探すこともできる。 * 図書資料の目次や索引が活用できることを伝えておく。 ・目次: 大体の内容を把握したり目的のページをすぐに開いたりすることができる。また、クイズにつながる特集ページやコラムのような囲み記事のあるページも把握しやすい。 ・索引: 調べたい「生き物名」から必要なページを探せる。 * しおりを用意し、クイズに出したい内容があるページに、はさんでおくようにするとよい。</p> <p>3. クイズにしたい内容をメモに書く。 * みんながあまり知らないようなこと、答えを聞くと驚いたり感心したりするような内容がクイズに適していることを伝え、「ここがすごい!」という観点を提示する。</p>	<p>【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(I(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)</p> <p>【態度】 ・積極的にクイズにしたい生き物について調べたり必要な事柄を集めたりして、学習課題にそって、「生きものクイズカード」を書こうとしている。</p>

<p><くみ立てよう・書こう> 4. 「生きものクイズカード」を書く。 * 問題と答えは簡潔な文で対応させて書くようにさせる。 * 「三択クイズ」か「○×クイズ」にすると簡潔な文章を書きやすい。 * 答えの後に詳しく「せつめい」(P64吹き出し参照)を書くことで、楽しいクイズになることをおさえる。</p> <p><読みかえそう> 5. 作ったクイズを読み返す。 * 問いと答えが対応しているか確認させるようにする。</p>	<p><つたえあおう> 6. 「生きものクイズカード」を使って、クイズを出し合う。 * ペア、グループで出し合ったり、全体で共有したりするなどクイズの出し合い方を工夫して、楽しむ。</p> <p><ふりかえろう> 7. どんな工夫をしてクイズの内容を集めたり、クイズを作ったりしたか、めあてにそって振り返る。</p>
--	--

漢字の ひろば②
なかまの 言葉と漢字
教科書:P66

△意味をもとに仲間に分けた漢字について理解する。

1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。
* 「なかまの言葉」について知るといふ学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。

2. 「朝・昼・夜」がどんなまとまりの言葉かを話し合う。
* 「朝」「昼」「夜」の漢字から、「時を表す言葉」であることを理解できるようにする。
* 一般的には「朝→夕」「昼→夜」が対義関係になるが、「朝→昼→夜」と時間の流れをつかむことができればよい。

3. 「家族を表す言葉」について考える。
* 挿絵を参考に、左側が女、右側が男を、上段からおおよその年齢順になっていることを理解させたい。
* 家族内での関係を表す漢字があることを知り、いろいろな家族を表す言葉を理解できるようにする。
* それぞれの漢字を声に出して読み、正しく読めているかどうかを確認する。

【知識・技能】
◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)
○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。
(1)オ

【態度】
・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって、漢字の意味のつながりを知ろうとしている。

4. 意味をもとに漢字を仲間に分けることについて理解し、それぞれの漢字を関連づけて覚える。
* どんな仲間の言葉なのかについて着目させ、P68『「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう』の学習につなげられるようにしておく。
* 意味のつながりを考え、それぞれの漢字を関連させて覚えるようはたらきかける。

5. 意味のつながりのある言葉や漢字を身のまわりから探して、ノートに書き、発表し合う。
* 身のまわりから、意味をもとにした仲間分けの例を集めるようにする。
(例)「目・耳・口・手・足」「はれ・雨・くもり」「日・月・星」「犬・馬」など。

6. 反対の意味の漢字を確かめ、あてはめる。
* 反対の意味を表す漢字を書くことを理解させてから、空欄にあてはまる漢字を記入する。
* 身のまわりから、反対の意味を表す漢字の例を集めるようにする。
(例)「入・出」「話・聞」「書・読」など。
* 既習漢字からだけでは集めることができない場合は、「今・むかし」「高い・ひくい」「近い・とおい」「前・うしろ」など、まだ漢字表記を学んでいないものを集めてもよい。
* P118『はんたいのいみの言葉、にたいみの言葉』(P150『ふろく・言葉の木』)の学習にむすびつくようにしておく。

7. 学習したことを振り返る。
* これからの漢字の学習でも、仲間の言葉、反対の意味の言葉などにまとめる習慣がもてるとよいことをおさえる。(下巻P18では、東西南北・春夏秋冬が提出される。)

<p>言葉のひろば② 「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう 教科書:P68</p> <p>△言葉が体系性をもって存在していることに気づき、上位語・下位語の概念に基づいて、言葉を探したりまとめたりする。</p>	<p>1. 言葉が仲間ごとにまとめられるということを知り、学習活動に対する見直しをもつ。 * 教材冒頭の会話文を読み、みんなで「言葉のなかまさがしゲーム」の問題を作って出し合う活動を行ってみたいという意欲をもたせる。 * P68の下段を読み、「だいこん・にんじん・じゃがいも」は「やさい」という仲間(上位概念)でまとめて言うことができ、「りんご」は「くだもの」の仲間に含まれる下位概念であることを理解させる。</p> <p>2. 「言葉のなかまさがしゲーム」を行うための準備をする。 * P69の上段を読み、まずはクラス全体で仲間ごとにどのような言葉があるのか集めてみる。 * グループに分かれ、教科書に示されているもの以外の「なかま」を設定し、それに合わせて言葉を集めてみる。 * ある程度言葉を集めたら、それが設定した「なかま」に含まれるかどうかを各グループで確かめさせる。 * 言葉をグループで集める活動の中で、一つの上位概念も下位概念も、更にその上位概念・下位概念にあたる場合があることにも気づかせたい。</p> <p>3. P70の上段を読み、前時に集めた言葉を用いて「言葉のなかまさがしゲーム」の問題づくりを行う。 * グループで集めた言葉の仲間から幾つかを選ばせ、そこに別の仲間の言葉を交ぜて問題を作らせる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。 (1)才</p> <p>○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア</p> <p>【態度】</p> <p>・積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし、学習の見直しをもって言葉を分類しようとしている。</p>
--	---	--

	<p>4. 別のグループの友達と一緒に「言葉のなかまさがしゲーム」を行う。</p> <p>* 別のグループの児童と二人で組みになって問題を出し合う。</p> <p>その際、ただ作った問題を見せるだけのやりとりをするのではなく、教材冒頭部にある「質問—応答」を意識して対話するよう促していくことが必要となる。</p>	
	<p>5. 学習したことを振り返る。</p> <p>* P70下段を読んで言葉における上位語と下位語について理解できたかどうかを確かめる。</p> <p>* 上位概念を理解させる場合には、「まとめていう」という言い方をするとわかりやすいということを理解させる。</p> <p>* 下位概念を理解させる場合には、「細かく分けていう」という言い方をするとわかりやすいということを理解させる。</p>	
<p>四 くりかえしに 気をつけて、とう じょう人物の 様子 を 読もう きつねの おきゃく さま 教科書:P72</p> <p>□場面の様子に 着目して、登場人 物の行動を具体的 に想像し、文章の 内容と自分の体験 とを結びつけて、 感想をもつ。</p> <p>★ここが大事:くり かえしのある お 話を 読む</p> <p>☆学習用語:場面 ／登場人物／繰り 返し／順序／わけ</p>	<p><見通しをもとう></p> <p>1. 単元扉を読み、単元の見通しをもつ。</p> <p>* 単元扉の題名、言葉、絵を見て、お話を想像させる。</p> <p>* 範読または児童の音読により、全体を通読する。</p> <p>* 繰り返し表現と、おもしろかったところの関心に気づかせる。</p> <p>* 新出漢字の確認と練習をする。</p> <p><たしかめよう></p> <p>2. P84「たしかめよう」の①②③の順序で、お話が繰り返されていることを確かめる。</p> <p>* 三回の繰り返しがあることを、「ここが大事」を参考にして、以下の観点から確かめる。</p> <p>①誰かが誰かと出会う。</p> <p>②すみかがなくて、困っている。</p> <p>③そろって、きつねの家に行く。</p> <p>* 繰り返しの中の違うところにも気づかせたい。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)</p> <p>○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)</p>

<くわしくよもう>

3. 以下のそれぞれの場面のきつねの思いを想像し、場面の様子や登場人物の行動を具体的に読み取る。

(1)ひよこ、あひる、うさぎに「○○お兄ちゃん」と言われた時。

(2)「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」と言って、飛び出した時。

(3)恥ずかしそうに笑って死んだ時。

*「ここがだいじ」にあるように、同じところと少し違うところに着目することで登場人物の変化や場面の様子の移り変わりに気づかせたい。

*お手紙のはじめとおわりの挿絵を用意し、1年生で学習した教材にも、似た場面の中で同じところと似たところがあったことを振り返らせるのもよい。

*挿絵も参考にしながら、きつねの考えたことを想像し、ノートに考えを書いてから交流させる。

*きつねの思いを想像させる際に、どの叙述からそう考えたかという理由を交えて発表させるようにする。

*挿絵にふきだしを使って、きつねの考えたことを書かせたり、ペーパースートを利用させたりするのもよい。

<まとめよう>

4. きつねの性格について本文をもとに考える。

*きつねの性格は複数出てくることが考えられる。それぞれが文章表現のどこを手がかりにして考えたのかを、はっきりと示すことができるようにさせたい。

・「このきつねは○○なきつねだと思います。どうしてかというとき……のときに、……をしていたからです。」など。

*難しい児童には、もう一度くわしくよもう>で精読した場面を振り返り、それぞれの場面の具体的なきつねの様子から考えさせたい。

【態度】

・進んでお話の中の言葉や表現がもつよさを感じるとともに、学習課題にそって自分の思いや考えを伝え合おうとしている。

	<p><つたえあおう> 5. <まとめよう>で考えたきつねの性格をノートにまとめ、友達と紹介し合う。 *意見交換をすることで、同じような性格だと考えていても、根拠となる言葉や表現が違っていたり、同じ言葉や表現を根拠としていても、受け取り方が少し違っている友達がいることに気づかせたい。</p>	
	<p><ふりかえろう> 6. この単元で学んだことを振り返る。 (1)繰り返しに気をつけて読んで気づいたことを振り返る。 (2)この学習を生かして、好きなお話や読んだことがあるお話の登場人物の性格や、繰り返しの表現について改めて考える。 * <くわしくよう><つたえあおう>の学習を振り返りながら、読書の楽しさを感じさせたい。</p>	
<p>言葉の文化③ いなばのしろうさぎ 教科書:P88</p> <p>△古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、場面の様子を想像する。</p>	<p>1. 学習の見直しをもつ。</p> <p>2. 絵を見て、どんなお話なのか、ストーリーを予想する。 * P88・89の挿絵を手がかりにしながら、どんなお話なのかを予想させる。人物の服装から、この話のおおよその時代を考えたり、うさぎとわに(わにぎめ)が登場することなどを話し合わせる。</p> <p>3. 絵を見ながら、教師の音読を聞いて、場面の絵をもとにお話を確かめる。 * 教師の範読を聞く。その際、教科書の文章を目で追わせる。P88・89の挿絵を使って、話の順序をおさえさせる。 * おもしろかったところを発表させる。</p> <p>4. 昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読む。 * ほかの日本の神さまの本や絵本を読む。</p> <p>5. 学習を振り返る。 * 地域の神社などの祭神について調べて知らせ、それにまつわる神話等に興味をもたせると生活に広がる。</p>	<p>【知識・技能】 ◎昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1エ)</p> <p>【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2イ)</p> <p>【態度】 ・進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、今までの学習を生かして昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読もうとしている。</p>

言葉のひろば③
うれしくなる言葉
教科書:P90

△言葉が表す意味と、その言葉にこめられる気持ちについて考え、話し合う。

1. 学校生活を振り返り、うれしかった言葉を想起して「うれしくなる言葉」について学ぶことへの見通しをもつ。

* 相手や自分への「うれしくなる言葉」について考えることを通して、言葉にこめられる気持ちについて理解するという学習を意識づける。

2. 心に残っている「うれしかった言葉」を思い出して、①どんな時に言われたか、②誰から言われたか、③どんな言葉をかけられたか、④どう思ったかを思い出して、カードに書く。

* どうしてうれしかったのかを考えさせる。それは、「言葉にこめられた気持ち」によるものであることを理解させる。そこから、言葉で表現することの大切さなどについて気づかせたい。

3. カードに書いたものをグループで見せ合い、会話をしながらお互いの気持ちを伝え合う。

* まずは小集団で伝え合うことで、言葉と気持ちを共有しやすい状況を作る。

4. グループでの発表をもとに、次はクラス全体に代表者が発表する。

* うれしい言葉をクラスで共有し、うれしい言葉をかけ合う雰囲気を作ることにより、言葉が通じ合うと心も通じ合うということの大切さに気づかせる。

5. 家族に言われてうれしかった言葉を思い出して、話し合いながらいろいろなエピソードを見つけ、言葉と経験を結びつける。

* 日常でも意識できるようにはたらきかける。どんなタイミングで声をかけられるといいかなど話し合うと、言葉の使い方にまで広がる。

【知識・技能】

◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア)

◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。(1)オ)

【思考・判断・表現】

◎「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア)

【言語活動例】

・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。(A(2)イ)

【態度】

・積極的に言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気づこうとし、学習の見通しをもって「うれしくなる言葉」を伝え合おうとしている。

6. 挿絵の友達の作品を見て、友達にかけるとよい言葉を考える。
 * 言葉の数が多ければいいわけではなく、相手の立場に立って、言葉を選んでいのかを大切にさせる。
 * 工夫した点をちゃんと評価してくれたり、自分のことを理解してくれたりするコメントはうれしい。また、自分が気づかなかったことを指摘してくれるコメントは、自分のことを見ていてくれているという気持ちが伝わりとうれしく感じる。よい人間関係の中で相手を思いやる心が言葉に表れるように考えさせる。

7. 言葉を考えながら友達にかけるとよい言葉はどのようなものがうれしいのか、相手の立場に立ったものを考えられるとよいことに気づく。

8. 友達の素敵などころを思い浮かべて、みんなであれしくなる言葉を伝え合う。

9. 言葉によって相手や自分がどのような影響を受けるのかを考え、学習をまとめる。
 * 声の大きさ・調子、表情、身振りなどの話し方によって、気持ちが伝わることも気づかせたい。

読書の ひろば②
 ひろがる 読書の
 せかい
 教科書:P94

△「オリジナル図書カード」や「読書ゆうびん」を作成する活動を通して、いろいろな本があることを知る。

1. 「オリジナル図書カード」や「読書ゆうびん」を作るという学習内容を捉え、学習の見直しをもつ。

2. 学校の図書室や地域の図書館などで、興味のある本を借りて、「オリジナル図書カード」や「読書ゆうびん」を作る。
 ※夏休みの宿題との関連などが考えられる。

3. 学習を振り返る。

【知識・技能】
 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3工)

【思考・判断・表現】
 ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)

【言語活動例】
 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)

【態度】
 ・読書生活を振り返ったり、読みたい本を選んだりしている。

<p>じゅんじょを考えて話そう 話したいな、聞きたいな、夏休みのこと 教科書:P96</p> <p>◇夏休みのできごとを、順序を考えて話したり、友達の話を聞いて感想を述べ合ったりする。</p> <p>☆学習用語:始め／中／終わり</p>	<p><見通しをもとう></p> <p>1. 教材名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1) 夏休みのできごとを順序を考えて話すという学習の見通しをもって、学習計画を立てる。 * 友達の話が聞きたいという思いを高め、紹介し合う活動の見通しをもたせる。 2. 紹介する夏休みのできごとを決める。 (1) 夏休み明け、久しぶりに会った友達と夏休みのできごとについて二人で組みになり交流する。 * 話題を決めることができるように、自由に話をさせるとよい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ)</p> <p>【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A(2)ア)</p> <p>【態度】 ・進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして夏休みのできごとを紹介しようとしている。</p>
	<p>3. 紹介する夏休みのできごとの話す構成を考える。 (1) 話す順序を考えてメモを書く。 * 始め・中・終わりでのどのようなことを話すかを確認する。 * 中には、したこと、感じたこと、思ったことを話すことを確認する。 (2) 組み立てメモを作る。 * メモは短い文で書かせるようにする。</p>	
	<p>4. 三人で組みになり、話す練習をする。 (1) 話す練習をする。 * 聞き手は質問や感想を伝える。 * 練習では、メモを見ながら話してよい。 * 写真や絵を提示しながら話す練習もするとよい。</p>	
	<p>5. クラスのみんなに話す。 (1) クラスのみんなに夏休みのできごとを話す。 * 写真や絵を提示しながら話すようにさせる。</p>	
	<p><ふりかえろう></p> <p>6. 学習を振り返る。 (1) 学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確認する。 * 全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。 * どんなことに気をつけて、夏休みの思い出を話したかを振り返らせる。</p>	

<p>しを読もう てんとうむし 教科書:P98</p> <p>□言葉のリズムや響きを楽しみながら、イメージの自由な広がりをおして詩を楽しむ。</p>	<p>1. 『てんとうむし』を音読し、気がついたことを発表し合う。 * 詩を範読する前に「てんとうむしを見たことがあるか」「どこで見たか」「どんな形や色をしたか」「どんな天候の時に見たか」などを発問して、てんとうむしのイメージを想起できるようにする。 * どんなに小さな生き物でも、どんなに大きな生き物でも、生きとし生けるもの全て、「いのちをいっこともっている」。その事実を確かめたい。</p> <p>2. 一人読み、ペア読み(一行ずつ交代して読む)、一斉読みなどをして、音読を繰り返す。 * 「てんとうむし」になったつもりで、動作化を取り入れたり、読み方を工夫したりして、音読する。</p> <p>3. 『てんとうむし』を読んだ感想をグループごとに交流したあとに、音読の方法を工夫するために、話し合う。 * 一人読み、ペア読み(一行ずつ交代して読む)、一斉読みなどをして、音読を繰り返しながら、どこの行に何人が読むか、誰が分担して読むか、どんな声で読むか、どんな声量で読むか、などについて相談する。</p> <p>4. グループごとに工夫した音読を発表する。</p> <p>5. 「生きものの『いのち』に、ちがいがいいのか」について考えて、意見交流をする。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1)エ)</p> <p>【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C2)イ)</p> <p>【態度】 ・すすんで言葉の響きなどに気をつけて、学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。</p>
<p>漢字のひろば③ 二つの漢字でできている言葉 教科書:P100</p> <p>△二つの漢字でできた言葉の構成を確認し、二つの漢字のつながり方を考える。</p>	<p>1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 二つの漢字のつながり方と言葉の意味を考えると学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p> <p>2. 「小石」の意味を考える。 * 「小石」を声に出して読み、読み方を確認する。 * 漢字「小」の意味と、複数の読みを考える。 * 上の漢字から下の漢字に読み下すと、意味がわかりやすくなることに意識を向けられるようにする。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p>

3. 「大木」「新年」「白線」という言葉の意味を考える。
* 二つの漢字が互いにつながりをもって結びついていることに意識を向けられるようにする。
* 提示する複合語や熟語を読み下すことで、意味を考えられるようにする。

4. 「子牛」の例をもとに「親鳥」「海水」「人名」という言葉の読み方と意味を考え、二つの漢字のつながり方を話し合う。
* 「どのような→□」「小石」「大木」「白線」など、「何の→□」「子牛」「親鳥」「海水」「人名」などのように、語相互の関係に着目できるようにする。
* これらの言葉を使って短文を作り、発表し合うようにする。

5. 「青空・夜空・夏空」、「朝市・朝日・朝会」などの言葉の意味について話し合う。
* 「□→空」「朝→□」と読み下し、二つの漢字の意味関係を考えさせる。
* 同じ「空」でも、「青空ー青い空(晴れ上がって青々とした空)」「夜空ー夜の空(夜の暗い空)」「夏空ー夏の空(夏の晴れたまぶしい空)」とその違いが比べられるとよい。
* 「朝の□」では共通しているが、「朝市ー朝の市(朝開く魚・野菜などの市)」「朝日ー朝の日(朝、東から昇る太陽)」「朝会ー朝の会(朝、一日の始まりにみんなが集まって行う会)」などと具体的に考えられるとよい。

6. 二つの漢字をつないで言葉を作り発表し合う。
* つないで作った言葉の意味を考え、どんなときにどのように使うかも発表し合えるとよい。

【態度】
・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって、二つの漢字でできている言葉を読んだり書いたりしようとしている。

	<p>7. 「同じ点数」は、「同点」という二つの漢字でできた言葉になることを理解する。 * 二つの漢字でできた言葉を考え、理解できる語句の量や範囲を広げるようにする。</p> <p>8. 二つの漢字を組み合わせて、いろいろな言葉を作り、発表し合う。 * 二つの漢字を組み合わせて言葉を作り、それをもとに短文を作り、発表し合い、話し合い、意見を出し合うことができるようにしたい。 * 二つの漢字を線でつないで言葉を作る活動の要領が理解できたら、同様の問題作りに取り組みせてもよい。</p>	
<p>一年生で学んだ漢字② 教科書:P102</p> <p>△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p>	<p>9. 絵の中の言葉の読み方を確認する。 * 絵に描かれたことと、言葉からわかる広場の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。</p> <p>10. 教科書の絵と言葉を参考に、広場の様子から想像できる短文を作る。 * 描かれている人物と行為、場の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。</p> <p>11. 主語と述語のつながりに気をつけて、絵の中の言葉を使って2文以上が続くように書き、発表し合う。 * まず、広場で、誰が何をしているかを「……が」「……は」で始まる文を書く。 * 語と語の続き方を考えて、主語と述語が整ったまとまりのある文となるようにする。 * 文と文の続き方に注意しながら、続きの文を書く。 (例)女の人が三びきの犬をさんぼさせています。また、ベンチのところで、おじさんが休んでいます。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)</p>
	<p>12. 学習したことを振り返る。 * 二つの漢字でできている言葉について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p>	<p>【態度】 ・積極的に文の中における主語と述語の関係に気づこうとし、学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。</p>

<p>五 登場人物が考えていたことをそうぞうしよう わにのおじいさんのたからもの 教科書:P104</p> <p>□文章を読み、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p> <p>★ここが大事:登場人物の考えをそうぞうする</p> <p>☆学習用語:登場人物、場面、想像する</p>	<p><見通しをもとう> 1. 単元の見通しをもつ。 * 単元扉を読み、単元の見通しをもたせる。 * 単元扉の題名、言葉、絵を見て、お話を想像させる。 * 範読後、児童による音読によって、通読する。 * 新出漢字や難語句を確認する。</p>	<p>【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)</p>
	<p><たしかめよう> 2. お話の内容の大体をつかむ。 (1)お話の登場人物を確かめる。 (2)お話のできごとを確かめる。 * だれが何をしたかを考える学習を生かし、おにの子とわにのおじいさんの行動からできごとを確認させる。次の<くわしくよもう>の学習につながるので、一つ一つの行動や表現を丁寧に読み取らせておきたい。</p>	<p>【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを讀んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)</p>
	<p><くわしくよもう> 3. 場面の様子に着目し、登場人物の行動を想像する。 (1)わにのおじいさんがどうしておにの子のたからもの場所を教えたのかを考える。 (2)おにの子とわにのおじいさんそれぞれにとってのたからものは何かを考える。 * 「ここが大事」に示された例を取り上げて、どの表現からどのような「登場人物の考え」が想像できるかを考えさせるとよい。その際、簡単な動作化や、ふきだしの書き込みなどをとおして、人物の様子を想像させることも考えられる。 * <まとめよう>の学習とも重なるが、『きつねのおきやくさま』できつねの性格を考えた学習を生かし、おにの子、わにのおじいさんの性格を考えていくことで、それぞれの宝物は何かを考える活動へとつなげていくのもよい。 * わにのおじいさんがおにの子の行動や言葉に心を打たれて宝の場所を教えていることをおさえる。宝の場所を教えたときの気持ちを想像する根拠とさせるとよい。</p>	<p>【態度】 ・学習課題にそって、進んで登場人物が考えていたことを、本文の言葉を根拠に想像しようとしている。</p>

<まとめよう>

4. おにの子がどのような人物かを考える。

* おにの子の行動や言葉にサイドラインを引き、それらを手がかりにしながら、おにの子の人柄を考えさせる。

* 『きつねのおきやくさま』の学習で性格を考える時に大切にしたこと振り返るのもよい。

<つたえあおう>

5. この単元で学んだ内容や感想を伝え合う。

(1) お話の興味を持った部分や、登場人物に共感した部分に線を引き発表する。

(2) 発表し、共有したことをもとに、おにの子か、わにのおじいさんに手紙を書く。

* お話のおもしろいと思ったところや、素敵だなと思ったところに線を引き、なぜそう思ったのか理由も加えてノートにまとめ、発表する。

* 作品の表現や登場人物の魅力など、お話のよさがたくさんあることに気づかせる。

* 意見交換をすることで、同じ場面に興味をもっている、根拠となる言葉や表現が違っていたり、同じ言葉や表現を根拠としていても、受け取り方が少し違っている友達がいることに気づかせたい。

<ふりかえろう>

6. この単元で学んだことを振り返る。

(1) 登場人物の行動や言葉に着目して気がついたことを振り返る。

(2) 登場人物に手紙を書くときに気をつけたことを振り返る。

* 登場人物の行動や言葉に着目したことで、その人物の性格や人物像がはっきりしたことを確認する。

* 登場人物の行動や言葉に着目して精読したことで、よりよい手紙を書くことができたことを確認する。

<p>言葉のひろば④ はんたいのいみの言葉、にたいみの言葉 教科書:P118</p> <p>△対義語や類義語があることを知り、身近な言葉から対義語や類義語を集める。</p>	<p>1. 言葉には、反対の意味をもつものや、似た意味をもつものがあることを知り、学習活動に対する見通しを持つ。 * P118・119の上段にある会話を読み、反対の意味の言葉と似た意味の言葉に興味をもち、自分からそれらを探してみたいという意欲をもたせる。</p> <p>2. 「はんたいのいみの言葉」にはどのようなものがあるかを考え、組みになるカードを作る。 * P118の下段にある設問をクラス全体で考えたのち、板書・ワークシート等によって、ほかにどのような言葉が反対の意味をもつのかについて理解を深め、各自で反対の意味をもつ言葉を探させる。 * うまく言葉を見つけることのできない児童に対しては、教師の側から言葉の一つ示し、その反対語を考えさせるようにする。 * 打ち消しの言葉を反対語としないように気をつけさせたい。</p> <p>3. 作ったカードを友達どうしで確かめ合う。 * 作ったカードが反対の意味になっているかどうかを迷うものについては、全体で共有し確認を行う。 * 確認がすんだカードを友達どうしで一つにまとめ、マッチングゲーム(バラバラに並べて反対語のペアを見つけるゲーム)をすることにより、知識の定着を図ってもよい。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。(1才)</p> <p>○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2ア)</p> <p>【態度】</p> <p>・積極的に反対の意味をもつものや、似た意味をもつものがあることに気づこうとし、学習の見通しをもって言葉を使おうとしている。</p>
---	---	---

4. 「にたいみの言葉」にはどのようなものがあるのかについて考える。
 * P119下段の一つめの設問をクラス全体で考えたのち、板書・ワークシート等によって、ほかにどのような言葉が似た意味をもつ言葉になるのかについての理解を深めさせる。
 * 教科書の既習ページやワークシートを活用するなどして、それらの中で用いられている言葉と似た意味の言葉を各自で探させる。

5. 「にたいみの言葉」を分類したり、整理したりして、気づいたことを話し合う。
 * P119下段の二つめの設問や自分で探した似た意味の言葉を分類・整理させ、気づいたことを発表させる。

6. 学習したことを振り返る。

六 まとまりのある文章を書こう
町の「すてき」をつたえます
 教科書:P120

■生活科の町たんけんで見つけたことやわかったことをもとに、自分の思いや考えが明確になるように事柄の順序にそって簡単な構成を考え、町のすてきを伝える文章を書く。

★ここが大事:まともりのある文章を書く

☆学習用語: /メモ /理由 /はじめ /中 /おわり /組み立てひょう /じゅんじよ

<見通しをもとう>
 1. 生活科の町たんけんで見つけたことやわかったことをもとに、町の「すてき」を書き、友達や家の人に伝える学習活動について見通す。

<きめよう・あつめよう>
 2. 探検したときに書いた「町たんけんカード」をから、町の「すてき」を伝えるために必要なことをメモに書き抜く。
 * 生活科の町たんけんの学習と関連させ、工夫したい。
 * ここでは生活科の町たんけん取材して書いた「町たんけんカード」から、「見つけたこと」「聞いたこと」「思ったこと」を区別して、メモとして付箋紙などに書き抜くようにさせている。

3. メモをペアで読み合い、内容を確認し合う。
 * 更に書きたすとよいことなどを助言するようにさせる。
 * メモは短い言葉で書くこと、観点別にマークを入れることをなどを確認する。

【知識・技能】
 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)力
 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)

【思考・判断・表現】
 ◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)

【言語活動例】
 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)

【態度】
 ・他教科での学習や経験を関連させながら、事柄の順序にそって構成を考え、報告する文章を書いている。

	<p><組み立てよう>(重点) 4. 「はじめ・中・おわり」に何を書くか考えて、組み立て表を作る。 * 書いたメモを「はじめ」「中」「おわり」を意識して、三つのまとまりに分け、構成を考える。 * 順序にしたがって書かせるようにする。この学習では時間的順序や場所的順序を意識させ、選ばせるようにする。 * 紙面の関係で「中」が2段になっているが、実態に合わせて工夫するとよい。</p>	
	<p><書こう> 5. 組み立て表をもとに、文章を書く。 * P124「大事な言い方」を使うと順序がわかりやすくなることをおさえる。同様に、伝聞の文末についてもおさえ、留意させるようにする。</p>	
	<p><読みかえそう> 6. 書き終わったら、まちがいがいか読み返す。 * 自分で読み返す、ペアに読んでもらい助言をもらうなどの工夫が考えられる。</p>	
	<p><つたえ合おう> 7. 書いた文章を読み合い、よいところを伝え合う。 * 順序がわかりやすく書いてあるかなどに着目して読み合い、よさを伝える。</p>	
	<p><ふりかえろう> 8. まとまりのある文章を書くためにどんな工夫をしたか、めあてにそって振り返る。</p>	
<p>国語の学習 つながる ひろがる 教科書:P126</p> <p>◇一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。</p>	<p>1. 半年間の国語の学習で学んできたことや言葉を思い出して書いたり、出し合ったりする。 * 上巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などを合わせて振り返ることができるようにする。挿絵やふきだしを参考にする。単元名や教材名だけでなく、印象的な言葉や活動など思い出すなど内容は多様でよい。 * 学んできたことを書き出したりして、グループや学級全体で発表し合う。</p>	<p>【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) ○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p>

	<p>2. 1で出し合ったことが、ほかの教科や生活の中で、どんなことに生かしていけるか考える。 * 国語の学習がさまざまな場面で生かされることに気づけるようにする。</p>	<p>【態度】 ・進んで経験したことから書くことを見つけ、今までの学習を生かして思い出したことや下巻の教科書でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。</p>
<p>一 じゅんじょや様子をあらわす言葉に気をつけよう さけが大きくなるまで 教科書:P8</p> <p>□さけの成長について、季節や場所、さけの様子の変り変わりを考えながら、内容の大体を読む。</p> <p>★ここが大事:時・場所・大きさを様子をせつめいする言葉</p> <p>☆学習用語:いつ(時)／どこで(場所)／どんな(大きさや様子)／じゅんじょ</p>	<p><見通しをもとう> 1. 単元名やリード文を読み、「じゅんじょや様子をあらわす言葉に気をつける」とは、どんな読み方なのかを考えたり、説明をする方法について確認したりして、学習の見直しをもつ。 (1)順序や様子を表す言葉とは、どんな言葉があるかを想起する。 (2)「じゅんじょや様子を表す言葉」は、本文に出てくるさけについて時(いつ)場所(どこで)大きさや様子(どんな)を考えて読むことだ、と確認をする。</p> <p><たしかめよう> 2. 感想を伝え合うことで本文に書かれた内容の大体を確認する。 (1)100～150文字程度の簡単な感想を書き、ペアで伝え合う。 * 伝え合った後は加筆する時間を確保し、伝え合った成果が残せるようにする。 (2)1枚1枚の写真が「いつ(時)、どこで(場所)、どんな(大きさや様子)ことを捉えた写真なのかを説明することを通じて、内容の大体を確認する。 * 学習の初期であるため、詳細な説明をするのではなく、大体どんな写真なのかを表現できればよい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2ア) 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考える。(A(1)イ) ◎「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)</p> <p>【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A(2)ア) ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C(2)ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に情報と情報との関係について理解しようとして、学習課題にそって、文章の中の重要な語や文を考えて選び出したりしている。</p>

<くわしくよもう>

3. さげが大きくなるまでの様子を、時・場所・大きさや様子を表す言葉に気をつけてまとめる。

(1)2～3段落までの、大人のさげが川を上り、卵を産むまでを、表を使って整理する。

(2)4段落のふ化したさげの赤ちゃんの様子を整理する。

(3)5段落、6段落の、川を下ってきた子どものさげが八センチメートルぐらいに成長した様子を整理する。

(4)7～10段落までの、海を泳ぎ始めてから産卵期に自分が生まれたもとの川へ帰ってくるまでの様子を整理する。

* P16学習の手引きのワークシートや、思考ツール(「ステップチャート」や「KWL」など)を使用するとよいだろう。

<まとめよう>

4. 「さげって、すごいな。」と自分がいちばん思うところと、そのわけを書く。

(1)挿絵と前時までの学習を確認し、自分がいちばん心に残った段落を選ぶ。

(2)選んだ箇所を中心に、どのようなことをすごいと思ったのかと、そのわけをノート等に記入する。

* 個人での解決が難しい場合は、P17学習の手引きに書かれた文章を参考にすることを伝える。

<つたえあおう>

5. 前時に作成した文章を友達と読み合い、考えを広げる。

(1)ペアを作り、文章を互いに読み合う。

* 文章のよさについて感想を伝えるように助言するといいたいだろう。

(2)読み合いを通じて考えたことを加筆する。

<ふり返ろう>

6. さげが大きくなるまでの感想について、できばえを振り返る。

(1)「時・場所・大きさや様子」のうち、どんな言葉に気がついたかを考え、記述して振り返る。

(2)自分の感想をまとめるときに、どんなことに気をつけて書いたかを考え記述して振り返る。

<p>二まいのしゃしんのちがいをくらべよう この間に何があった？ 教科書:P20</p> <p>□1枚めの写真から視点を定めて、2枚めの写真になった際、何かが起きたことを想像する。</p> <p>☆学習用語:比べる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. P20・21の二枚の写真のちがいを比べ、間に何が起こったかを考える学習の見直しをもつ。 2. 二枚の写真を比べ、毛を刈られるところと、刈り終わったところであることを確かめる。 3. 間に何が起こったかを自分なりに想像し、考えをノートに書く。 4. ノートに書いたことを友達と伝え合う。 5. 伝え合って考えたことを更にノートに加筆する。 6. 二枚の写真のちがいを比べることを通じて、想像を広げることができたかを振り返る。 	<p>【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)</p> <p>【言語活動例】 ・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C(2)ア)</p>
<p>二 様子をよく見て、くわしく書こう おもしろいもの、見つけたよ 教科書:P28</p> <p>■見つけた物をよく見て、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫して、友達に様子が伝わるように詳しく文章を書く。</p> <p>★ここが大事:様子がつたわるように書く</p> <p>☆学習用語:メモ／様子／大きさ／色／形／さわった</p>	<p><見直しをもとう></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 友達に教えてあげたい、おもしろいものを友達に伝わるように紹介するという学習活動を見直す。 *既習の観察記録文と共通することが多い。異なる点として、メモの観点を自分で書いたり、メモを同じ観点でまとめ整理する点、同じ大きさのものを例示したり矢印を使ったりする点がある。思考のてだてに重点が置かれている。 	<p>【態度】 ・進んで二枚の写真のちがいを比べることを通して、学習課題にそって、二枚の写真の間にあったできごとを想像しようとしている。</p>
	<p><きめよう・あつめよう></p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 見つけたものから、書くことを決める。 *見つけたものの様子を短い言葉でメモに書く。形、大きさ、色など観点となる言葉も書くようにさせる。 	<p>【知識・技能】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p>
	<p><組み立てよう></p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 見つけたものの様子をメモに書き、まとまりごとに並べる。 *「はじめ」「中」「おわり」を示した構成表の上にメモを置き、まとまりを考えさせるようにする。まとまりを枠で囲ませ、意識させるとよい。 	<p>◎「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(B(1)オ)</p>

<p>感じ／はじめ／中／おわり／まとめ／矢印／読み返す</p>	<p><書こう>(重点) 4. まとまりに気をつけて、文章を書く。 * 例文を読み、「大事な言い方」に着目させる。大きさを数値と共に同じような大きさのものを例示していたり、矢印を用いて大きさの向きを分かりやすく表したりしていることに気づかせる。</p> <p><読みかえそう> 5. 書いた文章を、声に出して読み返す。 * 声を出して読むことで、推敲を習慣とし、誤字脱字などに自分で気づかせるようにする。</p> <p><つたえ合おう>(重点) 6. 友達と文章を読み合う。 * お互いの文章のよいところを認め合い、感想を伝えるようにさせる。</p> <p><ふりかえろう> 7. 見つけたものの様子を伝えるためにどんなことに気がつけたか、めあてにそって振り返る。 * 自分や友達の文章のよさにも着目させる。</p> <p>1. 学習の見直しをもつ。 2. 教科書の「あいうえお」を使った文を声に出して読む。 * 文の中に「あいうえお」が使われていることを確認する。</p>	<p>【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)</p> <p>【態度】 ・進んで、友達に自分が見つけたものの様子がわかるように書き表し方を工夫し、学習課題にそって、文章に対する感想を伝え合おうとしている。</p>
<p>言葉の文化④ 「あいうえお」であそぼう 教科書:P32 △折句の文を読み、自分の名前や好きなものの名前を使って折句の文を作る。</p>	<p><見直しをもとう> 1. 単元扉を読み、単元の見直しと初読の感想をもたせる。 * 単元扉の題名、言葉、絵を見て、お話を想像させる。 * 通読して最初の感想を交流してもよい。 * 新出漢字や難語句を確認させる。</p> <p><たしかめよう> 2. 登場人物とできごとを確かめる。 * 場面ごとに登場人物とできごとを確認しできごとの順序を整理させる。教科書のように表にしてもよい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ)</p> <p>【態度】 ・進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づこうとし、学習の見直しをもって折句の文を作っている。</p>

<p>三 心にのこったところをしようかいし合おう ないた赤おに 教科書:P34</p> <p>□登場人物の気持ちの移り変わりを考えながら、『ないた赤おに』を読み、心に残ったことを話し合う。</p> <p>★ここが大事: 自分の考えをふりかえる</p> <p>☆学習用語: 登場人物／できごと／変化</p>	<p><くわしくよもう> 3. 人間たちや青おにとのかかわりから、赤おにがどのように変わったかを考える。 * 赤おにがどう変わったかではなく、「赤おにと人間たちとの関わり」「赤おにと青おにの関わり」がそれぞれ、どう変わったのかに着目させる。その際、P41、45、51の3枚の挿絵を用意して、考えさせるのもよい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)</p>
	<p><まとめよう> 4. 赤おにと青おにがそれぞれのようなおになのかを考える。 * <たしかめよう>で作成した表(場面ごとの登場人物・できごとをまとめた表)を生かしながら、それぞれのしたことに着目させ、どんな人柄であるのかを考えさせていく。 * 『きつねのおきやくさま』『わにのおじいさんのたからもの』の学習を振り返ることで、二人の人物の行動や言動など、本文の言葉に着目させたい。</p>	<p>【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)</p> <p>【態度】 ・進んで言葉や表現に着目しながらお話を読み、学習課題にそって繰り返し読むことで、初読の感想から自分の考えを深めようとしている。</p>
	<p><つたえあおう> 5. お話を読んで心に残ったこととその理由を紹介し合う。 * 意見交換をすることで、同じ場面や表現に興味をもっている、根拠となる言葉が違っていたり、同じ言葉を根拠としていても、受け取り方が少し違っている友達がいることに気づかせたい。</p> <p><ふりかえろう> 6. 心に残ったことを考える時に大切にしたことや、心に残ったことを紹介し合って気づいたことを振り返る。 * <見通しをもとう>で出てきた初読の感想と、<つたえあおう>で出てきた感想を比べることで、自分の考えを振り返らせる。精読することで自分の考えが深まったことを実感させたい。</p>	

	<p>1. 本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介するという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。</p> <p>2. 今までに読んできた本を振り返り、心に残ったことやその訳をメモする。</p>	
<p>読書の広場③ 「お話しじゅつかん」を作ろう 教科書:P56</p> <p>△自分の読んだ本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介する。</p> <p>☆学習用語:題名／作者</p>	<p>3. 「お話しじゅつかん」の作品を作る。 (1)紹介したい本を選び、心に残ったところを絵に描く。 (2)作品に題名を工夫してつけ、展示する。</p> <p>4. 「お話しじゅつかん」の作品の前で、本を紹介し合う。</p> <p>5. 学習を振り返る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3工)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)才) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)力)</p>
	<p><見通しをもとう> 1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)「クラスお楽しみ会」でする遊びを決めるために、グループで話し合うという学習の見通しをもって「学習の すすめ方」をもとに学習計画を立てる。 *「クラスお楽しみ会」のイメージをもたせ、自分たちでクラス遊びの内容を決め、「クラスお楽しみ会」を開く意欲をもたせる。</p>	<p>【言語活動例】 ・学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。(C(2)ウ)</p> <p>【態度】 ・「お話しじゅつかん」を作るという活動に見通しをもち、進んで今までに読んできた本を振り返って読んだり、カード作りに取り組んでいたりしている。</p>

<p>四 しつもんしたり答えたりして、つないで話し合おう 「クラスお楽しみ会」をひらこう 教科書:P60</p> <p>◇話し合いでクラスで行う遊びを決め、「クラスお楽しみ会」を開く。</p>	<p><きめよう・あつめよう> 2. やりたい遊びを考える。 (1)やりたい遊びを書き出し、その中から一つ選ぶ。 * 最初から一つを選ぶのではなく、いくつか出した中から選ばせるとよい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A1オ)</p>
<p>★ここが大事: つないで話し合う</p> <p>☆学習用語: カード／理由／質問／つなぐ／話し合い／伝える</p>	<p><組み立てよう> 3. 考えた遊びとその理由をカードに書く。 (1)カードに「クラスお楽しみ会」でやりたい遊びとその理由を書く。 * 理由は、短い文で書かせるようにする。 * 理由はいくつかあってもよいことを伝える。</p>	<p>【言語活動例】 ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。(A2イ)</p> <p>【態度】 ・積極的に互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないで、学習課題にそって「クラスお楽しみ会」でする遊びを決めるために、グループで話し合おうとしている。</p>
	<p><話そう・聞こう> (重点) 4. 話し合いを行い、クラスに伝える。 (1)P61とP62を読み、話し合いの流れを知る。 * 役割読みをさせて、イメージをつかませるとよい。 (2)P63「ここが大事」を読み、話し合いの仕方を知る。 * つないで話し合うことが大事であることを伝える。</p>	
	<p>(3)カードを使って話し合う。 * 互いに質問したり答えたりする。 * グループで、どの遊びがよいか一つ決めるようにする。また、その理由もまとめられるようにする。</p>	
	<p>(4)グループの話し合いをクラスに伝える。 * グループで決まった遊びとその理由を伝えられるようにする。 * 教師が板書で、話し合いを整理するとよい。</p>	

<つたえ合おう>
 5. 感想を伝え合う。
 (1)グループでの話し合いについて、友達の話をつないで話し合うために、どんな工夫をしたかを伝え合う。
 * 児童の感想の中から、つないで話し合うために大切なことを板書し、整理する。

<ふりかえろう>
 6. 学習を振り返る。
 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。
 * 全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。
 * 友達の話をつないで話し合うために、どんな工夫をしたかを振り返らせる。
 * 特別活動の時間等を使って、「クラスお楽しみ会」を開く。

1. P64・65を読み、心が動いた時に見たこと、したこと、感じたことを短い言葉で書くという学習活動を見通す。
 * リズムを楽しんだり、様子を思い浮かべたりしながら音読するなど短い言葉で表現するよさやおもしろさを味わわせたい。
 * 学級文庫など身近なところに詩の本を配置し、興味・関心をもちやすくする。

心がうごいたことを書こう
みじかい言葉で
 教科書:P64
 ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方をくふうして心が動いたことを短い言葉で書く。

2. 心が動いたことを書くときの表現を集める。
 * P64・65の作者は何を感じて心が動いたのか、それをどのように書いたのかを考えさせたい。
 * P64・65の作品のおもしろさや表現の特徴に着目させる。
 表現の特徴の例:「もしも～になったら」という想像／なりきっていると／音を表す言葉／例え／繰り返し／比較

【知識・技能】
 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア)
 【思考・判断・表現】
 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)

★ここが大事:心がうごいたときに感じたことを短い言葉で書く

☆学習用語:心が動く/なりきる/短い言葉で

3. 心が動いたことを短い言葉で書く。

*「楽しかった」「おもしろかった」というような一般的な表現ではなく、自分の気持ちを素直に表現する言葉を探させたい。

* P64の吹き出しを参考にして、全員で何かになりきって書いてみてよ。書くことが難しい児童には見立て遊びや教師との対話をそのまま表現するなどの支援が考えられる。

4. 作品を読み返す。

* 自分が書いた言葉を読み返したり、友達と交換して読み合ったりして、推敲する。実態に応じて清書する。

5. 作品を読み合い、感想を伝え合う。

* 友達の作品のよいところを見つけて、感想を伝え合う。よさを見つける観点を提示してもよい。

観点例:繰り返しのリズム/音を表す言葉のおもしろさ/なりきりや見立てのおもしろさ/題名のくふう
* 付箋紙などに感想を書いて渡すと、意欲につながりやすい。

6. 心が動いたことを短い言葉で書くためにどんな工夫をしたか、めあてにそって学習を振り返る。

【言語活動例】

・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ)

【態度】

・進んで言葉の書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、心が動いたことを短い言葉で書いたり友達の作品のよさを見つけようとしていたりしている。

1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。
 *いろいろな使い方と読み方がある漢字について知るという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。

2. 「生」という漢字のいろいろな使い方を考える。
 *これまでに学習した用例を思い起こすとよい。
 ・生きものクイズを作ろう。
 ・たまごからさけの赤ちゃんが生まれます。
 ・生活科の町たんけん。

3. P66上段の設問をもとに「生」の読み方について、話し合う。
 *P66上段の例文を声に出して読み、読み仮名をふって、漢字の読み方の違いを確かめ、それぞれの意味の違いを考えるようにする。
 *同じ漢字でも、言葉によって違う読み方をするものがあることに興味をもてるようにする。

漢字の広場④
漢字のつかい方と読み方
 教科書:P66

△漢字の使い方や読み方、意味などを考えて漢字を正しく使う。

☆学習用語:おくりがな

4. 「後」「行」「通」の読み方と、それぞれの意味の違いを考え、話し合う。
 *複数の読み方がある漢字について、ほかの言葉や漢字とのつながりを考え、使い方・読み方・意味などに着目して読むということをおさえる。

【知識・技能】
 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1エ)

【態度】
 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって漢字を正しく使おうとしている。

5. 送り仮名によって読み方が変わる漢字をもとに、「おくりがな」の役割を考える。

*「おくりがな」という語と、その意味、役割を理解できるようにする。
*「出る・出す」「回る・回す」「売れる・売る」などは、助詞に着目し、動詞とつなげて考えることもできる。

8. 絵の中の言葉の読み方を確認する。

* 絵に描かれたことと、言葉からわかる様子をたくさん発表できるようにする。

9. 教科書の絵と言葉を参考に、絵に描かれている様子から想像できる短文を作り、語と語の続き方に注意して文を書く。

* 絵の中には、「目・耳・手・足」「上・下」など互いに意味のつながりがある言葉があることを確認しておく。

10. 主語と述語のつながりに気をつけて、絵の中の言葉を使って2文以上が続くように書き、発表し合う。

* 語と語の続き方を考えて、主語と述語が整ったまとまりのある文となるようにする。

* 文と文の続き方に注意しながら、続きの文を書く。

(例)女の子は、テーブルの上にノートをひろげ、文を書いています。そして、男の子は、手や足をうごかし、体そうをしています。

<p>一年生で学んだ漢字③ 教科書:P68</p> <p>△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p>	<p>11. 学習したことを振り返る。 * 漢字の使い方と読み方について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ)</p>
	<p><見通しをもとう> 1. 単元扉を読み、「せつめいのくふうをたしかめて読む」とは、どんな読み方なのかを考えたり、説明書を書く方法について確認したりして、学習の見通しをもつ。 (1)おもちゃの説明書に書かれている言葉には、どんな言葉があるかを想起する。 (2)「せつめいのくふう」は、本文に出てくるジャンプロケットの重要な語や文がどうやってわかりやすい書き方にしているかを読むことだ、と確認をする。</p>	<p>【態度】 ・積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。</p>
<p>五 せつめいのくふうをたしかめて読み、せつめい書を書こう ジャンプロケットを作ろう 教科書:P70</p> <p>□順序を示す書き方を知る。</p> <p>★ここが大事:じゅんじょをしめす書き方でせつめいする</p>	<p><たしかめよう> 2. 本文に書かれた内容の大体を確認する。 (1)用意する材料と、道具は何だったのかを読み取り、ペアを作って確認する。 (2)作業手順がどんな順序となるか、段落の切れ目を確かめることで理解する。</p>	<p>【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。(B(1)イ) ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ◎「読むこと」において、文章</p>

☆学習用語:説明の工夫/順序/まず/つぎに

<くわしくよう>
3. ジャンプロケットが完成するまでの順序や、すること、気をつけることの種類で整理する。
* あらかじめ、写真に番号がついていることを確認するといいたろう。
(1)「一 とび出すしかけを作る」を読み、表を使って整理する。
(2)「二 ロケットとはっしゃ台を作る」を読み、表を使って整理する。
(3)「あそび方」を読み、表を使って整理する。
* P77学習の手引きのワークシートや、思考ツール(「ステップチャート」や「KWL」「クラゲチャート」など)を使用するとよいだろう。

<まとめよう>
4. 作り方をわかりやすく説明するためにされている工夫をノートにまとめる。
(1)本文の写真の使い方について考える。
(2)文の書き方について、「わかりやすい」と思った工夫をノート等に記入する。
* 個人での解決が難しい場合は、P78の学習の手引きに書かれた文章を参考にすることを伝える。

<つたえあおう>
5. 前時に書いたノートを友達と読み合い、考えを広げる。
(1)ペアを作り、ノートを互いに読み合う。
* 自分の書いたことと友達が書いたことが同じかどうか、を伝えるように助言するといいたろう。
(2)読み合いを通じて考えたことを加筆する。

<ふりかえろう>
6. 「ジャンプロケット」の作り方の説明の書き方を探したノートについて、できばえを振り返る。
(1)『ジャンプロケットを作ろう』の書き方について、どんな工夫を見つけられたか、を振り返る。
(2)次の単元で「おもちゃのせつめい書」を書く際に、どんなことを真似してみたいか、記述をする。

を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)

【言語活動例】
・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)
・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。(C(2)ア)

【態度】
・進んで説明の工夫を見つけようとし、学習課題にそって、感じたことやわかったことをノートにまとめている。

	<p><見直しをもとう> 1. おもちゃの説明書を書き、友達に伝える学習活動を見通す。 * P80「学習のすすめ方」参照。 * 他教科で作ったおもちゃを取り上げて活用することもできる。</p> <p><きめよう・あつめよう> 2. おもちゃの作り方や遊び方を思い出し、メモに書く。 * おもちゃを作ったときや遊んだときを思い出せるように写真を掲示したり、一緒に遊んだ友達と対話させたりすることも効果的である。</p>	
<p>五 せつめいのくふうをたしかめて読み、せつめい書を書こう おもちゃのせつめい書を書こう 教科書:P80</p> <p>■おもちゃの作り方や遊び方について、順序にそって構成を考え、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫して説明書を書く。</p>	<p><組み立てよう> 3. メモをもとに説明書の組み立てを考える。 * 二人組になって意見を交換しながら説明書に書くことを確かめ合い、メモを整理することもできる。 * おもちゃを作ったときに気をつけたこと、遊ぶときのポイントなど、作ったからこそわかることを書くようにすると書く必然性が増す。 * メモに書かなかった事柄は、組み立て表に直接書きたしてもよいこととする。</p>	<p>【知識・技能】 ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)</p> <p>【言語活動例】 ・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)</p>
<p>★ここが大事:せつめい書を書く</p> <p>☆学習用語:伝える／メモ／説明書／組み立て／じゅんじょ／作り方／あそび方／一、二、三……</p>	<p><書こう>(重点) 4. 説明書を書く。 * 説明する順序を考え、項目にそって、誤りのないよう正確に書くことを心がけるようにさせる。 * P83「ここが大事」の順序を示す書き方(番号)を全体で確認し、順序立てて書かせる。 * 一緒に作ったり遊んだりすることを想定しながら、読む人を意識して書くようにさせたい。</p>	<p>【態度】 ・進んで説明する順序に注意し、学習課題にそって、わかりやすく説明する文章を書こうとしている。</p>
	<p><読みかえそう> 5. まちがいがいないか読み返す。 * P116「文章の見直すときに気をつけること」の項目を提示したり、友達どうしで助言し合ったりすると効果的である。</p>	

<つたえ合おう>

6. 友達と読み合う。

* 順序を考えて書けたか、作る際の注意点を思い出して書けたかなどを確認する。

* 書いた説明書を使って、おもちゃを作ったり遊んだりする場を設けられると、書いた目的が達成でき、更に意欲につながる。

<ふりかえろう>

7. おもちゃの作り方や遊び方がよくわかる説明書にするためにどんなところを工夫したか、めあてにそって振り返る。

1. 「題名」に着目するように助言してから、教師が範読する。次に、児童が一人読み、一斉読みをしながら、音読をする。

* 初発の感想を発表する。

2. 1～4連それぞれで、その大きさをイメージする。

* 各連の行数を指で追って、数えてみるように指示して「三行」になっていることに気づかせるとよい。

* 「おの」を見たことがない児童がいる場合は、絵やイラストなどを示して、イメージが湧くように配慮する。

* 各連の「大きな」のイメージを自由に交流させたい。ただの「大きな」ではない。「せかいじゅう」という表現に着目するようにと助言する。

3. 5連の大きさをイメージする。

* 終連のイメージは、更に際限がない。音読を楽しみながら、イメージの自由な飛翔を楽しみたい。

<p>しを読もう せかいじゅうの海が 教科書:P84</p> <p>□音読をとおして言葉のリズムや響きを楽しむとともに、無限に広がる想像の世界を楽しむ。</p>	<p>4. 音読を工夫して発表し合う。 * 想像を楽しむために「* *」に入る言葉を出し合い、様子やしたいことを話し合わせる。(例:花、ケーキ、雲、夢など)</p> <p>5. 「どんなに大きな……だろな。」から想像し、絵に描いたり思ったことを書いたりする。 * 上段に絵を描き、下段に考えたフレーズや思ったことを書くような構成にするとよい。</p> <p>6. できあがったものを紹介し、感想を発表し合う。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)</p> <p>【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)</p> <p>【態度】 ・積極的に文章を読んで感じたことやわかったことを共有し、学習の見通しをもって想像したことを発表しようとしている。</p>
	<p><見通しをもとう> 1. 単元の見通しをもつ。 * 単元扉を読み、単元の見通しをもたせる。 * 単元扉の題名、文字、絵を見て、お話を想像させる。 * 音読発表会をめあてにして教材文を読んでいくことを確認させる。 * 新出漢字や難語句などを確認させる。</p>	
<p>六 場面や人物の様子をそうぞうして、音読げきをしよう かさこじぞう 教科書:P88</p> <p>□文章を読んで、場面や登場人物の様子に着目して具体的に想像し、伝え合ったり演じたりする。</p>	<p><たしかめよう> 2. お話の内容の大体をつかむ。 (1)登場人物を確かめる。 (2)お話の中のできごとや、はじめと終わりまで何が変わったのかを確かめる。 * 物語のあらすじの大体をつかめるようにする。今までの学習を生かし、場面、登場人物、できごとの表を用意しておくのもよい。 * 音読劇につなげるため、登場人物とは別に語り手がいることも確認する。</p>	<p>【知識・技能】 ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことやわかったことを共有している。(C(1)カ)</p>

★ここが大事:場面や人物の様子がつたわるように音読する

☆学習用語:登場人物/音読/場面/発表/様子

<くわしくよう>

3. 音読劇をするために、劇を通して伝えるべき場面や人物の様子を考える。

(1)6人の地蔵様は、なぜいろいろなものをじいさまとばあさまに届けたのでしょうか。

(2)じいさまとばあさまは、どのような人物だと思いますか。それがわかるところを見つけて紹介しましょう。

*「たしかめよう」で作成した主なできごとの表でじいさまのしたことを確認したり、その時にじいさまが言っていた言葉を教科書にサイドラインを引いて確認したりすることを通して考えさせる。

*じいさまとばあさまのしたことや言った言葉に着目しながら人柄を考えさせる。

<まとめよう>

4. お話の中で好きな場面を選び、理由とともに紹介する。

*教科書にある5つの場面の絵を用意しておくとい。

*好きな場面を選んだ人どうして集まり、その場面のよさを伝え合い、その場面のよさを改めて考えてもよい。

*好きな場面として選んだ場面が異なる人とグループを組み、思ったことを交流してもよい。

*『ないた赤おに』の学習を生かし、自分の理由と友達の理由を比べることで、自分の考えを振り返り、考えを深めさせたい。

【言語活動例】

・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)

【態度】

・すすんで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって音読発表会をしようとしている。

<つたえあおう>

5. グループで役割分担をし、準備をして音読発表会を行う。

(1)場面や人物の様子が伝わるようにどこをどのように工夫するのかを相談しましょう。

(2)役の分担を決めて、音読発表会を開きましょう。ほかのグループの発表を聞いて感想を伝えましょう。

*「ここが大事」を読み、音読の工夫についておさえる。

*登場人物の行動から性格を想像していくことで、声量や間の取り方など、音読の際の根拠となることをおさえるとよい。

<ふりかえろう>

6. 音読発表会を振り返る。

(1)場面や人物の様子を考える時に、気をつけたことを振り返る。

(2)音読発表会を経て、改めて音読してみたいと思ったものを見つける。

* <つたえあおう>で出てきたお互いの工夫した点は、<くわしくよもう>での活動が生きていたからだ気づかせたい。

*自分で探すのが難しいようであれば、P105にあるような本を読み聞かせするのもよい。

1. 昔から伝わるかるたについて知るという見通しをもつ。

*正月になると目にしたり、体験したりした昔の遊びを自由に発表させてもよい。

*かるた遊びをなぜするのだろうか、と問うことで課題意識がもてるだろう。

2. グループでかるたを作成し、実際に体験する。

<p>言葉の文化⑤ かるたであそぼう 教科書:P106</p> <p>△日本に古くから伝承されている昔遊び(かるた)を知り、実際に遊ぶこととおしてその魅力を知る。</p>	<p>3. 地域のかるたについて由来を調べ、実際に体験をとおして言葉の豊かさに気づく。 * 第1時と同様に、これらの遊びをなぜするのだろうか、と問うことで課題意識をもちながら遊ぶことができるだろう。</p> <p>4. 学習を振り返る。</p> <hr/> <p>1. 単元名とリード文を読み、学習の見通しをもつ。 (1)昔の遊びについて、遊び方を調べて、友達に説明するという学習の見通しをもって学習計画を立てる。 * 生活科の学習と関連させ、昔の遊びを思い出させる。 * 一つの遊び道具でも多くの遊び方があることに気づかせ、友達がまだ知らない遊び方を知らせたいという意欲をもたせる。</p> <p>2. 説明する遊びを決め、遊び方を調べる。 (1)新しく知った昔の遊びから説明する遊びを選ぶ。 * 最初から一つを選ぶのではなく、いくつか出した中から選ばせるとよい。</p>	<p>【知識・技能】 ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ</p> <p>【態度】 ・すすんで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づき、学習の見通しをもってかるたを楽しもうとしている。</p>
<p>じゅんじょに気をつけてせつめいしよう おはじきのあそび方 教科書:P108</p> <p>◇昔の遊びについて、遊び方を調べて説明する。</p> <p>☆学習用語:順序を表す言葉／メモ／説明／言葉／始め／中／終わり／順序</p>	<p>(2)遊び方を調べる。 * 家族や地域の方に遊び方を聞いたり、図書館で調べたりする時間を設ける。</p> <hr/> <p>3. 説明のメモを書き、練習をする。 (1)説明をするためのメモを書く。 * 始め、中、終わりでのどのようなことを話すかを確認する。 * 中には、順序を表す言葉を使うことを確認する。 (2)メモをもとに、遊び方について順序に気をつけて説明する練習をする。 * 順序を表す言葉を意識して説明する練習をすることを確認する。</p>	<p>【知識・技能】 ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A1)イ</p> <p>【言語活動例】 ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。(A2)ア)</p> <p>【態度】 ・積極的に相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして、昔の遊びの遊び方について説明しようとしている。</p>

4. 遊び方を説明する。
 (1)メモをもとに、遊び方について順序に気をつけて説明する。
 * 順序を表す言葉を意識して説明することを確認する。

5. 学習を振り返る。
 (1)学習全体を振り返り、できるようになったことや感想を確かめる。
 * 全体で話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。
 * 遊び方の説明をするとき、どんなことに気をつけて話したかを振り返らせる。

1. 冒頭の会話文をとおして、文作りにおいて主語と述語の対応が重要だということを知る。
 * 主語を明示することで文意が明確になることを意識させる。

2. 省略されている主語を考慮することを通して、主語を明示することの重要性に気づく。
 * 冒頭の会話文を読んで、何が来たと言っているのか考えさせ、主語を補った文を発表させる。
 * 主語が明示されることで文意が明確になることに気づかせる。

言葉の広場⑤
主語とじゅつ語
 教科書:P110

△文を読んで、主語と述語の対応を考え、正しく使うことができる。

☆学習用語:主語／述語

3. 教科書を読みながら、①～③の例文の形を確認していく。
 * ①～③の例文の形を確認しながら、「だれが」「何が」を表す言葉が主語、「どうする」「どんなだ」「なんだ」を表す言葉が述語であることを理解させる。
 * 主語は「だれは(も)」などの形になることもあり、また、過去の事柄を表す際は述語が「どうした」などの形になることを理解させる。
 * 文脈による変化にも対応できるように教科書には示されていない例文を示すのもよい。

4. ①～③の例文と同じ形の文を作る。
 * ①～③の例文と同じ形の文を、まずは口頭で発表させる。
 * 文の作り方がわかってきたところで、それぞれがノートに書くようにさせる。
 * 作成した文を文型ごとに発表させて確認する。

【知識・技能】
 ◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1力)

【態度】
 ・積極的に文の中における主語と述語との関係に気づき、学習の見通しをもって文を読んだり書いたりしようとしている。

<p>5. 学習したことを振り返る。</p>
<p>1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 同じ読み方の漢字を正しく使うことができるようにするという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p> <p>2. P112上段の文を声に出して読み、気づいたことを話し合う。 * 「長時間」の「長」と、「白鳥」の「鳥」は、漢字の意味が異なるがどちらも「チョウ」と読むことを確認する。 * 読み方は同じでも、意味や使い方が違う漢字同士について関心をもてるようにする。</p> <p>3. P112下段の設問について考える。 * 同じ「コウ」という読み方でも、「学校」「公園」「交番」「工場」のように意味や使い方によって、それぞれ適切な漢字を使うということを確認できるとよい。</p>

漢字の広場⑤
同じ読み方の漢字
教科書:P112

△同じ読み方の漢字を集め、漢字を正しく使う。

4. 「かい」「せい」など同じ読み方をする漢字を集めて文を作り、友達と読み合い、それぞれの漢字の意味や使い方の違いについて話し合う。
* 同じ読み方をする漢字の仲間集めとして、ゲーム感覚で取り組み、同音の漢字に関心が向けられるようにする。
* ただ単に同音の漢字を並べるのではなく、語句や文などの用例をもとに、それぞれの意味の違いを考えられるようにすることが重要である。

【知識・技能】
◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1エ)

【態度】
・積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって、同じ読み方の漢字を正しく使おうとしている。

5. P113の「か」「とう」「し」と読む漢字を集めて語句を作り、発表し合う。

*「か」「とう」「し」と読む漢字をそれぞれ集めるようにする。

・「か」下、火、花、科、夏、家、歌

・「とう」冬、当、東、答、頭

・「し」子、四、糸、止、市、思、紙

*あてはめてできた言葉について、意味を確認し、それをもとに短文を作り、発表し合い、聞き合い、その言葉の使い方が正しいかどうか確認できるとよい。

6. 同じ読み方をする漢字を集めて問題を作り、解答し合う。

* 巻末『漢字を学ぼう』を参考に、同音の漢字を集めて同様の問題を作るようにし、交流する。

7. 学習したことを振り返る。

* 同じ読み方の漢字を正しく使うことができるように、日常の言語生活でも注意していくよう意識づける。

<見通しをもとう>

1. 2年生でのできごとを思い出して、できるようになったことなどを書いて友達に伝える学習活動を見通す。

* P114「学習のすすめ方」や教科書を読んで、学習の見通しをもつ。

<p>七 思い出をくわしく書いて、読みかえそう こんなことができるようになったよ 教科書:P114</p> <p>■経験したことやできるようになったことなどについて、必要な事柄を集めたり確かめたりして文章を書き、まちがいがいいか読み返す。</p> <p>★ここが大事:けいけんしたことをくわしく書く／文章を読みよみかえす</p> <p>☆学習用語:思い出す／メモ／順序／日記／組み立て／組み立て表／はじめ／中／おわり／読み返す／見直す／たしかめる／小さく書く字／点／丸／かぎ／会話／原稿用紙</p>	<p><きめよう・あつめよう>(重点)</p> <p>2. できごとを思い出して、書くことを決める。 * 2年生でのできごとの中から心に強く残っていることを発表し合い、文章に書く題材について考える。 * 上巻P10・11「つづけて みよう 日記」に関連したものや、各自が書いてきた日記があれば、そこから話題を探すこともできる。</p> <p>3. 書きたい題材を一つ選び、詳しく思い出して、メモに書き出す。 * 日常的なできごとの中にも、心を動かされたこと、心に残っていることがあることをおさえさせる。 * P115の観点を活用し、「したこと」「見たこと」「話したこと」「聞いたこと」「感じたこと」「考えたこと」を書き加えさせる。</p> <p><組み立てよう></p> <p>4. 文章の組み立てを考える。 * 組み立て表を活用して、書くことを選び、順序を考える。 * 順序を決めたら、メモに番号を振らせたり、組み立て表に貼らせたりして固定する。書き加えたいことが出てきたときは適宜メモを加えたり、矢印で示したりする。</p> <p><書こう></p> <p>5. 組み立て表の順序にそって、文章を書く。 * P119の原稿用紙の使い方を参照にさせたり、すぐに見られるように手引きとして別紙で用意したりするとよい。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>◎「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ)</p> <p>【言語活動例】</p> <p>・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。(B(2)ア)</p> <p>【態度】</p> <p>・粘り強く文章を読み返して、今までの学習を生かして、まちがいを直そうとしたり確かめたりしている。</p>
--	---	---

<読みかえそう>(重点)

6. 間違いがないか、思い出として必要なことが書かれているか、読み返す。

* P116例文を全員で読み、「文章を見直すときに気をつけること」をヒントにして直したほうがよいところを見つけさせる。文章を直すことはよくなることであると確認し、積極的に認める。

* 訂正するときの記号なども伝えてよい。

* 表現のよい点についても気づかせる。会話が入っていることや感じたことや考えたことなどが詳しく書かれていることなどもおさえる。

* 実態に合わせ、必要に応じて清書をする。

<つたえ合おう>

7. できあがった文章を読み合い、感想を伝え合う。

* 作品のよさに着目して感想を伝え合うようにさせる。

* 友達だけでなく、保護者に協力を求めて感想をもらってもよい。

* 付箋紙に感想を書き、作品に貼るなどすると達成感を味わえたり、学習意欲が喚起されたりすることが期待できる。

<ふりかえろう>

8. できごとを詳しく書くためにどんな工夫をしたか、文章を読み返すときにどんなことに気がつけたか、めあてにそって振り返る。

	<p>1. 言葉には、音や様子を表すことができるものがあることを理解し、学習活動に対する見通しをもつ。 *教材冒頭の会話文を読み、音や様子を表す言葉を用いて文を書いてみたいという意欲をもたせる。</p> <p>2. 「音をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。 *P120下段を読み、まずは「音をあらわす言葉」にはどのようなものがあるか具体的にあげさせ、板書等を活用して整理していく。</p> <p>3. 「様子をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。 *P121上段を読み、次に「様子をあらわす言葉」にはどのようなものがあるか具体的にあげさせ、板書等を活用して整理していく。 *一般的に、擬声(音)語は片仮名で、擬態語は平仮名で表記されることを確認し、おさえておく。</p>	
<p>言葉の広場⑥ 音や様子をあらわす言葉 教科書:P120</p> <p>△擬声語や擬態語のはたらきなどを理解し、文の中で使う。</p>	<p>4. 濁音の有無によって、「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。 *P121上段の一つめの設問をクラス全体で考え、清音と濁音の違いによって受ける印象の違いがあることに気づかせる。 *教科書にあげられた例以外に、どのようなものがあるか各自で考え、全体で共有を図る。</p> <p>5. 単純形と反復形によって、「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。 *P121上段の二つめの設問をクラス全体で考え、単純形と反復形の違いによって受ける印象の違いがあることに気づかせる。 *教科書にあげられた例以外に、どのようなものがあるか各自で考え、全体で共有を図る。</p>	<p>【知識・技能】 ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。 (1)才</p> <p>【態度】 ・積極的に、音や様子を表すことができる言葉があることに気づき、学習の見通しをもって文の中で使おうとしている。</p>

6. 音や様子を表す言葉の種類を広げられるよう、P121下段の設問3を考える。
 * 前時まで学習したことを生かして考える。

7. 学習したことを振り返る。
 * P121下段を読み、「音や様子をあらわす言葉」は、表現をより具体的でわかりやすいものにしてくれるものだということを理解させる。

1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。
 * 組み合わせでできている漢字について知るとい学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。

2. 「明」という漢字の分け方を考える。
 * 漢字には、幾つかの意味ある部分や既習漢字に分けることができるものがあることが気づくことができるようにする。
 * 二つに分けられない漢字には、どんなものがあるかも考えるようにする。
 (例)山、木、日、月、人、田、車、上、下など。

漢字の広場⑥
組み合わせでできている漢字
 教科書:P122

△同じ部分をもつ漢字を集め、漢字を正しく使う。

3. 漢字の中には、左右・上下・内外などに分けられるものがあることを確かめ、漢字の組み立て方には一定のきまりがあることを理解する。
 * P122では、組み合わせがわかりやすいように、いずれも既習の単体の漢字どうしの組み合わせでできている漢字を示している。
 * 漢字の組み立て方と筆順の関係にも目を向けるようにする。
 ・左から右へ:「切」など。
 ・上から下へ:「答」など。

【知識・技能】
 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ

【態度】
 ・積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって、同じ部分をもつ漢字を正しく使おうとしている。

4. 「心・田」などの漢字を組み合わせてできる漢字を考え、話し合う。
* 「心」「田」をカードに書き、左右、上下、内外などに組み合わせて、考えるようにするとよい。同様に「生」「日」「売」「言」「会」「糸」などもカードにしてやってみる。

5. 「心・田」などと同じような問題を作り、解答し合う。
* 漢字の組み合わせの基本的なパターンを把握できるようにし、今後学習する際の視点を示し、漢字学習への興味・関心を高めるようにする。

6. 熟語を手がかりに、「言」の部分をもつ漢字を探し、発表する。
* 漢字はいろいろな形が複合して構成されているものが多くあり、部分を部分として認識することが、学習の効率化を図り、意欲を増すことにつながる。
* 「会話・会計」と二通りの解答が想定される。また、解答は既習漢字を対象とすることが望ましい。しかし、ときに「試算・誤算」「国論・国訓・国設」などのような解答がみられる場合がある。その際は、多くの児童にとって意味がわかるものだけに限定したい。

7. 「日」を部分にもつ漢字について確かめる。
* 「夜明け」「時間」など例示の語を声に出して読む。
* それぞれの言葉に使われている漢字のどこに「日」があるかを発表しあう。

8. 「土」「田」など、同じ部分(構成要素)をもつ漢字を集めて問題を作り、発表する。
* 同じ部分をもつ漢字とそれを使った言葉を集めて交流することをおして、語彙の拡充につながるよう留意する。
* P159「漢字を学ぼう」を参考に集めるとよいことを伝える。

	<p>9. 絵の中の言葉の読み方を確認する。 * 絵に描かれたことと、言葉からわかる様子をたくさん発表できるようにする。</p> <p>10. 教科書の絵と言葉を参考に、絵に描かれている様子から想像できる短文を作り、語と語の続き方に注意して文を書く。 * 絵の中には、「森・林」「草・花」など互いに意味のつながりがある言葉があることを確認しておく。 * 語と語との続き方を考えて、まとまりのある一文となるようにする。</p>	
	<p>11. 男の子と女の子の目に映ったものを、主語と述語のつながりに気をつけて、2文以上が続くように書き、発表し合う。 * 文と文の続き方に注意しながら、続きの文を書く。 (例)赤いやねの家が町にあります。その家の前に青い色の車がとまっています。</p> <p>12. 学習したことを振り返る。 * 組み合わせてできている漢字について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。</p>	
<p>一年生で学んだ漢字④ 教科書:P124</p> <p>△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。</p>	<p><見通しをもとう> 1. 単元の見通しをもつ。 * 単元扉を読み、単元の見通しをもたせる。 * 単元扉の題名、文字、絵を見て、お話を想像させる。 * 単元末には、あらすじをまとめて友達に紹介するために、物語を詳しく読むことを確認させる。 * 難語句や特別な表現についての解説や「言葉」の設問は、学習活動の中で適宜取り扱う。 * 新出漢字の確認をする。</p>	<p>【知識・技能】 ◎第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p>

		<p>【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【言語活動例】 ・簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ)</p> <p>【態度】 ・積極的に前学年で担当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。</p>
<p>八 何が、どのようにかわったかに気をつけて読み、お話をしようかいしよう</p> <p>アレクサンダとぜんまいねずみ 教科書:P126</p> <p>□何が、どうかわったかに気をつけて読み、あらすじをまとめてお話を紹介する。</p> <p>★ここが大事:あらすじをまとめる</p>	<p><たしかめよう> 2. 登場人物とできごとの順序を確認する。 (1)登場人物や主なできごとを確かめる。 (2)アレクサンダは2つの挿絵の場面で、それぞれどんな願いごとをしようとしていたかを考える。 *場面ごとの登場人物の行動や、話した言葉を確認する。今までの学習のように表にまとめるのもよい。 *登場人物の中で、はじめとおわりで変わった人物はいるか、変わった人物はどのように変わったのか、なぜ変わったのかを確認する。</p>	<p>【知識・技能】 ◎言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア)</p> <p>【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)</p> <p>【言語活動例】 ・読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。(C(2)イ)</p>
<p>☆学習用語:登場人物、できごと、変化、あらすじ</p>	<p><くわしくよう> 3. アレクサンダが願いを変えた場面について詳しく読む。 (1)アレクサンダは、いつ自分の考えを変えたのか、話し合う。 (2)アレクサンダは、なぜ考えを変えたのか、話し合う。 *挿絵にふきだしを書いて、場面ごとの登場人物の気持ちも考えさせたい。 *挿絵を用意して「ぼくは……」のあと、なぜ言いかけてやめたのかを考えさせたい。 *願いを変えた場面以外にも、アレクサンダの気持ちの変化につながる表現があることにも着目させたい。</p>	<p>【態度】 ・すすんで自分の体験と結びつけながらお話を読み、登場人物の行動や場面の様子に着目し、今までの学習を生かしてあらすじをまとめようとしている。</p>

<まとめよう>

4. アレクサンダが願いを変えたことについて自分の考えを書く。

* <くわしくよもう>で挿絵にふきだしを書いたものを見返したり、<たしかめよう>で確認したアレクサンダが、これまでウイリーとしてきた会話やできごとを振り返ることで自分の考えに理由をもたせたい。

<つたえあおう>

5. あらすじと心に残った場面をまとめて、友達に紹介する。

* <たしかめよう>でまとめた、主なできごとを参考にしながら、あらすじが紹介できるとよい。

* P141<つたえあおう>の例文を紹介しながら、どのような構成で書くとよいかおさえる。

* ふくろうのふきだしを参考にさせる。「はじめ・中・おわり」については、P128、P136、P139の挿絵を用意しておくといよい。

* 同じお話からも、感じ取り方はいろいろあることに気づかせたい。

<ふりかえろう>

6. この単元で学んだことを振り返る。

(1)あらすじをまとめるときに気をつけることを振り返る。

* 「はじめ・なか・おわり」を読み取り、お話に起きたできごとと、はじめとおわりで何が変わったのかを伝えることが大切だと確認する。

(2)あらすじをまとめて改めて紹介してみたいお話がないか振り返る。

* P143になるような本を紹介し、読み聞かせを行いながらあらすじを考えさせてもよい。

1. 一年間の国語の学習で学んできたことや言葉を思い出して書いたり、出し合ったりする。

* 上・下巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などを合わせて振り返ることができるようにする。挿絵やふきだしを参考にする。単元名や教材名だけでなく、印象的な言葉や活動など思い出す内容は多様でよい。

* 学んできたことを書き出したりして、グループや学級全体で発表し合う。

<p>国語の学習 これまで これから 教科書:P144</p> <p>■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。</p>	<p>2. 1で出し合ったことをもとにして、3年生の国語で学びたいことを出し合う。</p> <p>* 3年生になって「できるようになりたいこと」「やってみたいこと」「読んだり書いたりしてみたいこと」など、1で出たことに対応させていろいろな観点で自由に発表し合う。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 (A(1)エ)</p> <p>◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア)</p> <p>【態度】</p> <p>・すすんで経験したことから書くことを見つけ、今までの学習を生かして思い出したことや3年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。</p>
--	---	--